

到達からの前進

▼日本イエス・キリスト教団・東京若枝教会牧師 飯塚 俊雄



「きよめ」の信仰に立つ教職・信徒が一つとなり、「聖化」の旗のもとにその交わりを深め、研鑽し、宣証の使命を帯びてこの時代に立てられていることに、大きな責任感をおぼえる者です。

元来、私は「きよめ」の流れではない所で信仰生活を始め、はからずも導かれたのが「きよめ」の神学校で、大きなとまどいと反発、しかし聖霊の深い探りにこらえ切れず、自己破碎を通して、遂にこの信仰を握った者です。

この信仰で奉仕に明け暮れた三十五年をふり返り、先人から受け継いだ「聖化」に立つ歩みとは何だったのかと思うことしきりです。

パウロは、ピリピ三章に「最後に、私の兄弟たち」と呼びかけながら、

「きよめ」の信仰に立つ教職・信徒 思わず自分の「はらわた」を切り開いて見せています。「聖化」とは何かとは言いませんが、自分の生活と奉仕、品性の秘訣とも言うべきものを語り明かします。

「神の霊によつて礼拝をし、キリスト・イエスを誇りとし、肉を頼みとしないわたしたちこそ、割礼の者である」(三・3)。

御霊による礼拝(奉仕)。  
キリスト・イエスにある満ち足り。  
肉への断固たる拒絶。

何という純靈性でしょうか。

「あなた方はその方を知っています」(ヨハネ十四・17)。そのような意味における聖霊とおつき合いです。

御霊による礼拝の一言にこもる聖霊の恵みとお働きのすべて！

人格的、個人的なお交わりに裏付

けられた御霊への信頼と従順。肉性に対する断固たる処置(ガラ五・24)そしてキリストを栄光とし、光榮とし、誇りとし、歎息とする。

このような霊状、靈性の姿こそ、割礼本来のあるべき姿であるとパウロは言いたいのです。

しかし、私が申し上げたいのは、自分がかつて誇りとしていたものを悉くかなぐり捨てて、何も残らぬ全く裸でゼロになったパウロが、「さらに進んで」(三・6)と言っている心境です。「それどころか」(新改訳)のスピリットです。

ああ、「わが主キリスト・イエスを知る」ことの何という深みでしょう。「わが主」を知るべきほどに知って、彼のみで充分と言いつけるほど、ひたむきに私は「さらに進んで」いるだろうか。この道の深さよ。

	集会名	出席数	席上献金	予約献金	予約者	合計額
10月19日	セミナー I 七 講 演 会	257 28 271 394	297,264	1,130,500	172	1,427,764
10月20日	セミナー II 教 師 交 流 会 神 学 生 交 流 会 聖 徒 大 明 信 表 身 入 新	234 59 316 156 453 280 17 37	150,628 403,285 210,567	60,000 341,500 543,000	8 66 98	219,628 744,785 753,567
合 計			1,061,744	2,084,000	344	3,145,744

# ● 聖会第一夜メツセージ

## 記憶のいやし

私たちは人生において例外なく過去における事故、死、思い出したくない出来事と言う幻想の中を通過することがあります。マタイの福音書二六章においてペテロはイエス・キリストを呪いました。このことは彼の心の中にいやすことのできない記憶を留めたのです。しかし、使徒の働きを見るとき、彼は見事につくり変えられました。彼はさよめられ聖霊のバプテスマを受けたのです。

聖書の中に出てくる「心」と言うことは意識下にある存在を意味しており、「記憶の銀行」と呼ぶことができず。箴言四章二三節では「力の限り、見張って、あなたの心の限り、見張って、あなたの心の泉はこれからわく。」と記されています。神様が私たちの心にあるどうしても消し去っていただきたい記憶からのいやしを与えてくださることを覚えて主を待ち望みましょう。

私の生徒でアービットと言う青年がおりました。彼はしばしば授業に欠席しました。ある日

クラスに出てきた彼は、授業の後の面接を申し出てきました。彼は、授業料のために長い時間働かなくてはならないこと、それ以外に自分の心の中にどうしても取り除くことのできない病があると言いました。私たちは、その心の病が取り除かれるように祈りました。彼の心の病は取り除かれ同時に彼の肉体の病も癒されたのです。

次に彼に会ったのは、説教の時間に彼が演習をする時でした。彼の顔は輝いていました。彼は自分に起こった出来事を語りました。先週のこと彼は、友人達と共にインディアナ州の北部に伝道のために出かけて行きました。彼等は福音を伝える素晴らしい時を持つことができ、人々の魂の状態に深く触れることができました。その帰り彼は一人で車を運転して帰ることにになりました。神の御霊は幼かった時の記憶をアービットに語りかけてくださったのです。おまえは望まれずして生れてきた子だった。おまえの母親はおまえを嫌いおまえを憎んだ。」このことが話されたとき御霊の

声は止まりました。アービットは自分の生涯を振り返りどうして自分は怒りに満ちて過去を過ごしたのだろうかと言う事を考えました。この怒りが彼の意識の上に昇ったのです。彼は初めて自分の生涯が怒りに満ちていたことに気付きました。そして、その怒りは母親に焦点が合わせられ、怒りが絶頂に達したとき、再び神の御霊は語り始めました。

「おまえのその怒りを私に委ねることはできるか」と、「主よ、もしあなたが助けてくださるのならお願いします。」とアービットは答えました。私たちは肉の力でこの怒りを征服することはできません。神の御霊だけがそのことを成し遂げてくださるのです。

次に彼が聞いた語りかけは、姉達の態度についてでした。姉達に対する憤りが沸き上がってくるのを感じ、その怒りが絶頂に達した時、もう一度主の御霊が彼に語り始めました。「お姉さん達に対して持っているその怒りを私に委ねることはできるか」「はい、あなたが助けてくださるならそうします。」彼は前より

ももっと大きな幸いと自由を喜ぶことができました。ローマ書の自由、ガラテヤ書の自由と言うことを理解することができました。

さらに神の御霊は語り続けました。それは、父親の死に関することでした。

アービットの父親は彼が九歳の時に亡くなりました。父親の死は彼にとってはショックな出来事でした。神様は彼に語られました。「アービット、おまえは父親の死を私のせいにしていないか。ある種の人々は人の死に関して神に怒りを持っていません。しかし、神は、彼の避けた傷口にいやしの油を注いでくださり、記憶の癒しと言う素晴らしい業を行ってくださいました。

あなたは過去における記憶というものをどのように処置なさっていますか。隠された所の怒り恐怖その他の事で怒りを覚えていらっしゃる方はいらっしゃらないでしょうか。私たちは隠すことを止め、私たちの記憶を偉大な医者であるイエス・キリストのもとにお捧げすることです。それが最も有効な解決方法なのです。

# 報告

一博士を主講師として

大いなる神の恵みが注ぎます。

# 第7回聖化大会(東京)

昨年10月19日(月)～20日(火)の二日間、東京における第7回聖化大会が、ドナルド・E・デマお迎えし、淀橋教会で開催されました。

特に聖会では453名という記録的出席者を数え、御名を崇めました。その他の集会にがれ幸いでした。別表の如く教勢、財勢を報告し、下記に聖会のメッセージの概略を示して

## 聖会第二夜メッセージ

きよめを知る人々は、健康な人々であるといえます。かつてE・スタレー・ジョーンズは「不健康な十二使徒」という話をしました。今晩私は、その十二の項目を挙げ、それに私自身の注釈を加えていきたいと思えます。

1 怒り  
怒りは、人間が取り組むべき最も共通の問題です。医学者は、怒りは、肉体にも害を与えると言っています。祈りをもって神に怒りを委ね、日々新鮮に聖霊に満たされ、怒りから潔められていなければなりません。

2 憤り  
憤りも健康に害を与え、また多くの事故を生み出します。憤りを持ったまま生きてゆくことは出来ません。憤りは、神にきよめていただかなければなりません。憤りを持っていないふりをしているのにはなりません。

3 思い煩い  
聖書は、「何も思い煩うな。」と述べ、さらに、「あらゆるばあいに感謝しなさい。あなたがたの願い事を神に知っていただきな

さい」と、思い煩いに対する解答を与えています。これが、きよめられた人の姿です。

4 支配したいの願望  
物事を秩序だて、組織を整えて進めてゆくこと自体は、少しも悪いことではありません。問題は、どのような方法と心でそれをやるかにあります。神ご自身を中心とし、神によって事を行なうてゆくべきです。

5 恐れ  
恐れは、私達を無力にします。興味深いことに、新約聖書において恐れの反対語は愛であることを見出します。聖書にはつきりと「愛は恐れを締め出します」と言っています。ですからジョン・ウエスレーは、きよめを愛と呼んでいるのです。

6 自分のことのみにとらわれてしまうこと  
時には、自分を見つめることも大切ですが、あまりにも内省的になるのはよくありません。聖霊に満たされた生活のすばらしさの一面は、自分自身から解放されていくということです。

7 罪責  
罪責は、過去に対して持つて

いる重荷です。必要もないこと自分を責める完全主義からくる誤った種類の罪責感を持つてはなりません。神の律法を犯すときそこに存在する真の罪責は正しく処置されなければなりません。あなたの罪責を告白し、主に委ねなさい。主はその罪を完全に赦し、忘れてくださるのです。

8 性的不潔  
性的な不道徳を行なうとき、心にも身体にも病をもたらすこととなります。姦淫について神はつきりと命じておられます。あなたは、神の律法を破ることは出来ないが、律法は、あなたを破壊することが出来るということに覚えなければなりません。

9 妬み  
妬みは、多かれ少なかれ自己中心の現われです。自分より優れた人が現われると妬みへの誘惑が起きます。しかし、それが広がる前に神に委ねることが出来ます。それとともに、その自分より優れた人のために祈るよき機会ともなるのです。

10 創造性の欠如  
私たちは神の像に造られました

た。その像の中心要素は、創造性です。創造的なことに携わることはひじょうに心地よいものです。神が与えてくださった賜物に従って、ものを生み出していくことは神が喜んでくださることであり、私達にも喜びとなるのです。

11 劣等感  
劣等意識にさいなまれていると私達は落ちこみます。劣等感、自分で責任を担おうとしないことです。失望の時、遺伝的な要素や肉体的な故障を理由にすることもできますが、私たちは神の恵みの下に行く決断をしてください。

12 愛の欠如  
ここでいう愛は、犠牲的な愛、アガペーのことです。敵をも愛することは、クリスチャン信仰の顕著な特徴です。この十二使徒をどのように扱うかの鍵は、赦しにあります。神の恵みは、すばらしく現実的です。その恵みのゆえに神の赦しの提供を受け入れ、自分の敵を赦し、そして最も難しい自分自身を赦すことも出来るのです。

(文責・林 正弘)

# 地域だより

総務リポート

## 栃木ブロック聖化交友会

「聖潔宣証」の地方の働きについて  
機関誌「聖化」を通して、地方ブ  
ロックの聖化大会のためのお祈りを感謝  
申し上げます。

この年、地方の聖化大会をコツコツ  
と積みあげ、実質六回の集いを営んで  
きました。栃木ブロックが、豊かな祝福  
をいただき、その実績が認められ、遂  
に本年十月に開催される東京・大阪他  
の聖化大会と等しく、講師推薦委員の  
御推薦の遠来の講師を宇都宮でも用い  
られてはと声をかけて下さり、各教会  
の先生方、信徒の皆様方一同も（昨今  
は他の教会からも恵みを求めてご来会  
下さいます）大いに喜んでいきます。増  
増、聖潔の宣証に励みたいと思ってお  
ります。

もう一つは、委員会ごとに学びを続  
けております。使命重大な折、何度も  
読んでおりますウエスレーの「キリス  
ト者の完全」を藤田光一師（宇都宮ホ  
ーリネス）を中心に学び、恵みのひと  
ときであることをご報告します。

## ★第五回聖化交友会

### 栃木ブロック・聖会報告

第五回目を迎えました。栃木ブ  
ロックの聖会は、三月十四日（日）  
—十五（月）まで竿代忠一先生を  
講師として開催されました。今回  
のテーマは「完全な救い：聖書的  
きよめ」であり、ヨハネ第一の手  
紙第一章七節から重厚なメッセー  
ジがとりつがれ、聖霊の豊かな傾  
注を頂いた幸いな集会となりました。  
左記に恵みの報告をさせて頂  
きます。

▼第一日目 三月十四日（日）夜  
七時 会場—コンセーレ宇都宮

①出席者 99名

②席上献金 122,700円

▼第二日目 三月十五日（月）夜  
七時半 会場—基督兄弟団・宇都  
宮教会

①出席者 71名

②席上献金 115,250円

この聖会のために厚いお祈りを  
頂き、心より感謝申し上げます。  
（報告・山田 彰）

## 東海聖化交友会

東海地区での聖会をきっかけに、聖  
化交友会が誕生してはや五年、今秋に  
は、第六回目の聖化大会を迎えよう  
としております。格別三年前には、日本  
聖化交友会と基本点を同じくする規則  
が制定され、より本格的な活動が続け  
られています。

会員については、個人加入より教会  
単位の加入を中心としているところに  
（転任などの際も考慮して）特色があ  
り、委員も多くの教派を代表するよう  
工夫されております。

今のところ活動の中心は、東京、大  
阪に來られる講師を、当地にもお迎え  
して行われる秋の聖化大会が中心とな  
っておりますが、それ以外にも種々の  
建設的意見も出ています。日本の講師  
も加えて、二日間か別の時に聖会をも  
つては、「地道な教職者の学びの時をも  
ちたい」などです。又個人的なつなが  
りから、インド聖化交友会の活性化、  
日本との交流をも目指して、微力を尽  
したいと祈り願っております。  
（報告・竿代 信和）

▼昨春秋に開催された第七回聖化大  
会・東京大会、また各地における活動  
報告を中心とした第15号をお届け致し  
ます。発行時期が遅延しましたこと、  
御容赦ください。今年度も全国各地で  
「聖化」の宣証が拡大していくことを  
心より願っています。

▼さる三月九日に関東聖化交友会の  
評議員会及び全国の評議員会が開催さ  
れ、特に日頃交わりの少ない全国の評  
議員の先生方と良きお交わりの時をも  
つことがゆるされ、感謝でした。（編）

## ◆関東聖化交友会

規則第六条「会員」  
の項の改正

さる三月九日の関東聖化交友会  
規則第十三条に基づき、第六条の  
「会員」の項を次のように改正す  
ることが議決されました。

第六条中、

「関東地域の個人、各個教会、  
教派、各種団体を会員二名以上の  
推薦と役員会の承認によって会員  
とする。」を、「個人、各個教会、教  
派、各種団体を役員会の定める手  
続きおよびその承認によって会員  
とする。」に改めるものとする。